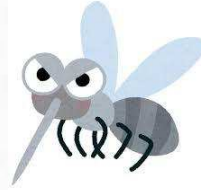




この度は、当薬局をご利用頂きありがとうございます。
今月は『虫さされ』についてのお話です。



◆原因となる虫は

「虫」の定義はあいまいですが、その中で、皮膚炎を引き起こす原因となる主な虫としては蚊、ノミ、ブヨ、ハチ、アブ、ケムシなどの昆虫類、そしてダニ、クモ、ムカデなどの昆虫以外の節足動物が挙げられます。これらのうち、「吸血する虫」としては蚊、ブユ、アブ、ノミ、「刺す虫」としてはハチ、「咬む虫」としてはクモ、ムカデが代表的で、「触れることで皮膚炎をおこす虫」としては有毒のケムシが挙げられます。

◆虫さされの2大症状

虫の種類や刺された人の体質などにより、紅斑・じんましん・ショックといった症状がすぐに出る場合(=即時型反応)と、紅斑・丘疹・水ぶくれが1~2日後に出る場合(=遅延型反応)とがあります。虫の種類によって症状のあらわれ方が違いますが、共通するのは、**かゆみや赤みを伴う腫れ**です。



◆虫さされの治療

虫さされの治療は、軽症であれば市販のかゆみ止め外用薬でもよいですが、**赤みやかゆみが強い場合はステロイド外用薬**が必要です。症状が強い場合は抗ヒスタミン薬やステロイドの内服薬が必要になるので、**皮膚科を受診**するのがよいでしょう。ただ、これらの治療はあくまで現在の皮膚症状を抑えるのが目的であり、原因虫からの回避、あるいはその駆除対策を実施しなければ新たな虫さされの症状が現れる可能性があります。

◆虫さされの対処法

虫さされは掻けば掻くほどさらにかゆくなります。なぜ、かゆいときに掻いてはいけないのでしょうか。

それは、ひどく掻き過ぎると**皮膚炎を起こしてしまう**からです。さらに、掻き壊した皮膚から細菌が入ると化膿したりして治りが悪くなります。子供の場合、蚊に刺された所を掻いているうちに**とびひ(伝染性膿痂疹)**になり、さらに数日であつという間に広がってしまうこともあります。

かゆくても掻かずにかゆい所を流水や氷でしっかり冷やせば、かなりかゆみは治まります。また、市販されているかゆみに貼るシールを利用したり、幼い子供なら、爪を短く切っておくことも重要です。



◆虫さされの予防

アウトドアでのレジャーや庭仕事のときは、薄着になりすぎず、ある程度皮膚を覆う服装を心がけましょう。特に夏場は虫の活動は活発になります。草むらや山に出かけるときは、肌の露出した部分に、虫が嫌う成分が配合された**虫よけスプレー**をつけておくといいでしょう。

また、汗をかくと有効成分が流れて効果を発揮できませんので、虫よけスプレーを携帯して出かけましょう。

オレンジやミカンなどの**柑橘系果物皮に含まれるシトロネール**は、虫の嫌う匂いなので、皮の汁を絞りそれを塗ると虫よけになるといわれています。虫よけ剤がない場合や虫よけ剤が、苦手な人にはおすすめです。

